

# 公益財団法人 交通遺児育英会 令和 2 年 度 事 業 報 告

(令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)

本年度は、第 4 次長期事業計画の最終年度にあたり、同計画中の主眼であった奨学金の一部給付を実現することはできたものの、新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）の感染拡大により、年度を通して事業活動に大きな影響を受けた。

毎年夏に実施していた「高校奨学生と保護者のつどい」および「海外語学研修」を中止したほか、返還業務においても、長期滞納者を対象とした現地戸別訪問および民事調停申立ての実施を見合わせた。無料出張講演や心塾の行事・講座、募金課による訪問活動等も中止した。

新型コロナの感染拡大に伴う緊急対応としては、令和 2 年 6 月に全奨学生に対して 1 人あたり一律 20 万円、さらには第二弾として 12 月に 1 人あたり 10 万円の支援金を給付した。

通常業務の奨学生の採用については、例年どおり全国の学校、教育委員会等に向け積極的な奨学生募集広報活動を行ったが、新規採用者、継続採用者ともに前年度に比べて減少した。

一方、奨学貸与金の回収に関しては、本年度は回収額は前年度並みであったが、回収率は前年度から低下した。滞納者数、滞納額ともに前年度末に比べて増加しており、新型コロナの影響による返還者の失業や収入減によるものではないかと思われる。また、返還猶予、免除に関しては、返還猶予は前年度に比べて猶予者数、猶予額はともに減少したものの、返還免除は免除者数、免除額ともに前年度を上回った。

心塾に関しては、令和元年に生前贈与を受けた武蔵境駅前の建物を学生寮に改装し、「武蔵境寮」として同 2 年 4 月より男子学生、女子学生それぞれ 2 人の受け入れを開始した。また、老朽化に伴う東京寮の建替えを検討・推進するため、9 月にプロジェクトチームを発足させ活動を開始した。

令和元年度制作を開始した「交通遺児育英会 50 年史」が同 2 年 5 月末に完成、6 月以降関係各者に配布した。

以下に事業別の詳細を記載する。第 4 次長期事業計画の重点課題については、本文中、項目番号の前に\*印を付してある。

## I. 奨学生の採用および奨学金の貸与等

当会奨学事業を取り巻く環境は大きく変化している。

- ①大きい要因として、交通事故死傷者数の減少による交通遺児家庭の減少と少子化がある。
- ②高校については、平成22年度より高校無償化法（公立高等学校授業料不徴収および私立高等学校等就学支援金支給）が実施され、さらに平成26年度には法改正で低所得者への支援金支給が拡充されたことが挙げられる。
- ③また、令和2年度より大学等における修学の支援に関する法律に基づき、高等教育の修学支援新制度が発足し、授業料等減免や給付型奨学金が創設され、高等教育を取り巻く環境が変化した。
- ④一方、各都道府県においては独自の奨学金制度があり、これらの奨学金制度の多くは他奨学金との併受給を禁止している。

(参考) <最近5年間の交通事故死者数・負傷者数の推移>

年	H28	H29	H30	R 1	R 2
交通事故死者数 (人)	3,904	3,694	3,532	3,215	2,839
同 負傷者数 (千人)	619	581	525	461	369

こうした影響は、平成28年度以降の奨学生採用数で見ると下表のとおりである。

各種学校奨学生以外の全ての学校区分で減少傾向にあり、高校奨学生と専修学校奨学生の採用数減少が顕著である。採用者総数は、平成28年度の1,227人から令和2年度の1,014人へと213人減少している。

奨学金総額への影響も顕著であり、平成28年度の823百万円(貸与のみ)から令和2年度の642百万円(貸与・給付合計)へと181百万円減少している。

<最近5年間の奨学生採用数・貸与金額の推移> (人、百万円)

年 度	高 校	大 学	大学院	専 修	各 種	合 計	奨学金総額
H 28	388	616	30	189	4	1,227	823
H 29	338	625	18	174	6	1,161	757
H 30	321	584	19	147	4	1,075	683
R 1	305	605	20	118	4	1,052	669
R 2	285	588	19	118	4	1,014	642

(注)「高校」は「高専」を、「大学」は「短大」を含む。以下同じ。

1. 令和2年度奨学生の採用および奨学金の貸与・給付額

<令和2年度奨学生採用者数と奨学金および入学一時金等貸与（一部給付）額>

		新規採用者(人)		継続採用者(人)		採用者合計(人)		貸与額 (千円)	給付額 (千円)
		実績	前年 同期比	実績	前年 同期比	実績	前年 同期比		
奨 学 金	高 校	109	-7	176	-13	285	-20	103,690	240
	大 学 学 院	143	-34	445	17	588	-17	218,310	131,600
	大 学 院	10	2	9	-3	19	-1	12,150	4,320
	専 修 種	56	7	62	-7	118	0	46,260	25,680
	各 種	1	-2	3	2	4	0	840	720
	合 計 (R元年度)	319 (353)	-34	695 (699)	-4	1,014 (1,052)	-38	543,810 (552,810)	
入 学 一 時 金 等	高 校	63	16	—		63	16	31,800	0
	大 学 学 院	36	-21	—		36	-21	25,200	0
	大 学 院	26	9	—		26	9	19,600	0
	専 修 種	0	-1	—		0	-1	0	0
	各 種								
	合 計 (R元年度)	125 (122)	3	—		125 (122)	3	76,600 (82,200)	
	準備金 (R元年度)	—		31 (45)	-14	31 (45)	-14	21,800 (34,000)	
令和2年度奨学金および入学一時金等貸与（一部給付）額合計 (令和元年度)								642,210 (669,010)	

(注)「高校」は「高専」を、「大学」は「短大」を含む。以下の表について同じ。

令和2年度の奨学生の新規採用として、令和元年度に予約決定した新1年生の本採用、および令和2年度に1年生以上に在学している者の在学採用を実施した。

新規採用数は、大学奨学生が前年度比34人減と大きく減少し、高校奨学生も7人減少、各種学校奨学生も2人減少した。一方、大学院奨学生が2人増加、専修学校奨学生が7人増加した。その結果、全体では前年度に比べ34人減少し合計319人となった。

2年生以上の継続採用者は、大学奨学生が17人増加、各種学校奨学生が2人増加したものの、高校奨学生が13人、大学院奨学生が3人、専修学校奨学生が7人の減少となり、全体では前年度に比べ4人減の合計695人となった。

これらにより令和2年度採用者合計は前年度より38人減少し1,014人となった。

令和2年度の奨学金の貸与・給付総額は5億44百万円となり、前年度（貸与のみ）に比べて9百万円の減少となった。また、入学一時金の貸与者は、前年度に比べ3人増の合

計125人、貸与額は前年度より6百万円減少し、77百万円となった。高校奨学生3年生への進学準備金の貸与は、前年度に比べ14人減の31人、貸与額は前年度より12百万円減少し、22百万円となった。

この結果、令和2年度の奨学金および入学一時金・進学準備金の貸与・給付総額は6億42百万円となり、前年度（貸与のみ）に比べ27百万円の減少となった。

## 2. 奨学生の退学、辞退等の状況

令和2年度における退学、辞退者等は前年度（60人）より21人減少し、合計39人であった。これにより令和2年度末奨学生総数は975人となった。

＜令和2年度奨学生採用数の内訳および年度末奨学生数＞ (人)

学 校	新 規 採 用 者			継 続 採用者	採用者 合 計	退学・ 辞退者 等	年度末 奨学生数
	予約 採用	在学 採用	合計				
高 校	70	39	109	176	285	5	280
大 学	109	34	143	445	588	22	566
大学院	8	2	10	9	19	2	17
専修/専門	49	4	53	60	113	9	104
専修/高等	2	1	3	2	5	0	5
各 種	1	0	1	3	4	1	3
合 計	239	80	319	695	1,014	39	975

また、令和2年度末の奨学金の休止および一時停止者は次表のとおりであり、高校奨学生1人、大学奨学生13人、専修学校奨学生6人の合計20人である。前年度末より8人減少した。

＜休止、一時停止の状況＞ (人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合 計
R 1年度末	3	22	0	3	28
R 2年度末	1	13	0	6	20
増 減	-2	-9	0	+3	-8

### 3. 令和3年度奨学生の予約採用および心塾入寮予約採用

令和3年度に進学する者のための予約採用を例年どおり実施した。予約決定者数の合計は令和2年度の262人（高校72人、大学132人、大学院8人、専修・各種50人）より38人少なく224人であった。特に高校予約決定者の減少が31人と大きかった。

東京学生寮、関西学生寮の入寮予約採用も実施した。

＜令和3年度奨学生・入寮生の予約決定者数＞ (人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合計
予約決定者数	41	136	7	40	224
東京寮予約決定者数	—	25	0	4	29
関西寮予約決定者数	—	30	1	1	32

### 4. 修学支援金の給付

修学支援金制度のうち、平成27年度下期に創設した「家賃補助」の実績は下表のとおりである。上期150人、下期153人で昨年度に比べ年間合計で28人減少した。

＜家賃補助金給付者数＞

	大 学(人)	大学院(人)	専修・各種(人)	合 計(人)	給付額(千円)
R1年度上期	129	8	24	161	14,490
同下期	137	9	24	170	15,300
R2年度上期	132	5	13	150	13,500
同下期	136	5	12	153	13,770

(注) 給付額は月々1万5,000円で、上期と下期に半年分を一括給付する。

### 5. 新型コロナ対応支援金の給付

新型コロナの感染拡大により、奨学生やその保護者を取り巻く環境が大きく変化していることから、緊急対応として奨学金の休止・停止者を除く奨学生全員に対して「新型コロナ対応支援金」を給付した。

＜令和2年度新型コロナ対応支援金の給付状況＞

	人数	1人あたり給付額 (千円)	給付総額 (千円)
6月決定分	944	200	188,800
12月決定分	946	100	94,600
計	—	—	283,400

6. 奨学生の募集広報活動

募集案内を、全国の中学校および高等学校には、年度初めと2学期の終わり頃の年2回、大学・大学院および専修・各種学校には年度初めに送付した。都道府県や市町村の教育委員会、警察等の関係部署、全国の自動車教習所等にも募集協力依頼を年度初めに送付した。これら送付先の総数は約3万件である。

当会ホームページには、詳細な奨学生募集案内を各学校別、予約・在学別に掲載、願書については直接ダウンロードできるようにしており、同ページからの応募関係書類送付申込みや質問の受け付けを実施した。

II. 奨学金の返還

奨学金返還においては、今年度も返還者の減少は続いているものの、回収額は前年度並みとなった。滞納については、新型コロナによる返還者の失業や収入減によるものと思われるが、前年度比8.3%増となった。

1. 返還金回収事務の推進状況

(1) 返還金の回収状況

令和2年度の返還対象者数は12,865人、奨学金と入学一時金（進学準備金を含む）を合わせた回収額は10億16百万円、請求額（令和2年度中に返還期限が到来した要返還額：11億62百万円）に対する回収率は87.4%であった（前年度は88.1%）。

なお、回収ルート別の回収額は以下のとおり。

＜回収ルート別の回収額＞ (百万円)

	口座振替	振込み		合計
		銀行	コンビニ	
回収額	794 (78.2%)	51 (5.0%)	171 (16.8%)	1,016 (100.0%)

また、当年度中の返還完了者は735人であった。

<令和2年度返還金回収状況>

	奨学金	一時金	合 計
返還者数	12,865人	6,697人	12,865人
回収額①(千円)	869,408	147,120	1,016,529
請求額②(千円)	988,215	174,602	1,162,228
回収率(①/②)	88.0%	84.3%	87.4%
返還完了者数	735人	293人	735人

<最近5年間の返還金回収状況>

(百万円)

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
返還者数	14,280人	13,994人	13,634人	13,243人	12,865人
回 収 額	1,009	1,026	1,033	1,008	1,016
回 収 率	87.1%	88.2%	89.6%	88.1%	87.4%
返還完了者数	755人	738人	786人	716人	735人

(2) 返還猶予

令和2年度中に返還猶予を承認決定した者は993人で、前年度より513人少なかった。

これは、新型コロナの影響により滞納者に接触できなかったため、滞納者との合意で行う滞納期間の返還猶予期間への転換が十分に進まなかったことによる。

993人のうち病気療養を含む経済的理由によるものが888人(89.4%)あり、経済的理由による返還猶予の申し出は引き続き高い水準で推移している。

<最近5年間の返還猶予決定者数>

(人)

		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
猶予決定者数		1,659	1,708	1,539	1,506	993
内	在学中・浪人中	174 (10.2%)	172 (11.2%)	127 (8.4%)	197 (11.9%)	105 (10.6%)
	経済的 理 由	1,534 (89.8%)	1,367 (88.8%)	1,379 (91.6%)	1,462 (88.1%)	888 (89.4%)

(3) 返還滞納者の状況

滞納者数および滞納額については平成 28 年度から令和元年度まで漸減傾向にあったが、令和 2 年度末には「1 年超滞納」「うち 5 年超の長期滞納」ともに前年度に比べ増加した。「1 年超滞納」は 2,548 人(前年度比 106.5%)、9 億 75 百万円(同 108.3%)、「うち 5 年超の長期滞納」は 1,141 人(同 109.7%)、6 億 89 百万円(同 110.6%)であった。

<令和 2 年度末滞納期間別滞納状況>

滞 納 期 間	R 1 年度末		R 2 年度末	
	人数(人)	金額(千円)	人数(人)	金額(千円)
5 年超	1,040	623,584	1,141	689,408
4 年超 5 年以下	212	73,918	147	52,503
3 年超 4 年以下	200	55,334	318	87,101
2 年超 3 年以下	396	79,274	390	77,001
1 年超 2 年以下	545	68,069	552	68,534
小 計	2,393	900,179	2,548	974,547
6 ヶ月超 1 年以下	263	18,189	388	26,381
合 計	2,656	918,368	2,936	1,000,927

<最近 5 年間の滞納状況>

	1 年超滞納		うち長期滞納 (5 年超)	
	人数(人)	金額(千円)	人数(人)	金額(千円)
H28 年度末	2,795	1,033,944	1,302 (46.6%)	763,164 (73.8%)
H29 年度末	2,598	963,882	1,132 (43.6%)	674,840 (70.0%)
H30 年度末	2,566	932,158	1,043 (40.6%)	620,340 (66.5%)
R 1 年度末	2,393	900,179	1,040 (43.5%)	623,584 (69.3%)
R 2 年度末	2,548	974,547	1,141 (44.8%)	689,408 (70.7%)

(注) ( ) 内は 1 年超滞納に占める割合

(4) 返還免除の状況

令和 2 年度中の返還免除は、件数で 103 件、金額で 73,760 千円となり、免除件数および金額ともに前年度を大きく上回った。

奨学生の死亡・心身障がいや生活保護受給による返還免除が増加している。



＜令和2年度返還免除件数・金額と5年間の推移＞

(千円)

	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死亡	15	8,000	14	11,615	18	17,804	11	7,935	17	12,416
心身障がい	20	27,918	12	10,910	17	17,841	24	29,101	27	38,705
債務整理*	4	1,822	14	10,933	20	20,693	19	19,553	18	18,241
生活保護	0	0	12	540	27	1,526	33	1,872	38	2,233
特別支援学校	0	0	4	7,020	2	3,120	0	0	1	2,040
その他	0	0	1	65	0	0	0	0	2	125
計	39	37,740	57	41,083	84	60,984	87	58,461	103	73,760

※自己破産、個人再生を含む。

(5) 滞納者への督促状等の送付

滞納期間3ヵ月超の滞納者に対し、4月と10月に下表の督促状を送付した。また10月から返還開始（新返還者）の滞納者（滞納1回以上）に対しては令和3年3月に初回等未納通知26通を発送した。

＜督促状等の発送件数＞

(通数)

滞納期間	滞納通知書 (滞納3ヵ月超)	督促通知書 (滞納3年超)
4月発送	2,070	1,192
10月発送	1,408	1,402
計	3,478	2,594

なお、滞納期間が3年超の督促通知は、滞納通知（3ヵ月超）より厳しい文言で今後の返還計画を回答するよう求めたもの。

(6) 住所調査の推進

宛先不明返還者に対する住所調査を推進し、419件の住民票・戸籍附票等の交付請求や電話調査を行った結果、390件の移転先住所が判明した。新住所の判明により通知書等がより確実に返還者に届くことになり、滞納防止にもつながっている

## 2. 重点課題の推進状況

### \* (1) 長期滞納者対策の推進

#### ① 戸別訪問の実施

本年度は 14 都府県の長期滞納者宅の戸別訪問を計画したが、新型コロナの影響で中止した。

#### ② 3年超滞納者宛て督促通知の送付

1.(5)のとおり、令和2年3月末現在及び9月末現在で3年超の滞納となっている返還者へ督促通知を送付し返還を促した。

#### ③ 調停申立て

平成26年度より開始した滞納者に対する民事調停について、本年度は70件の申立てを予定したが、新型コロナの影響ですべて中止した。

### \* (2) 6ヵ月超5年以下滞納者への電話督促

本年度は、新型コロナの影響で電話督促を休止したが、状況把握のため8月に滞納6ヵ月超5年以下の滞納者57件に対して架電し、通話できた件数は14件であった。

## Ⅲ. 奨学生に対する指導

### 1. 学業成績および生活状況に関する指導

#### (1) 学業成績に関する指導

年度初めに奨学生全員の令和元年度末学業成績表の審査を行った。進級の成否や取得単位数をもとに奨学金継続の可否を判定し、一部の者については、奨学金の停止、辞退勧告の措置をとった。また、学業成績表の内容から見て奨学金停止のおそれのある学生およびその保護者に対しては、注意喚起の文書を送付した。一方、令和元年度の奨学金停止対象者のうち同年度の成績に改善が見られた者については、奨学金を復活した。

#### (2) 生活状況に関する指導

奨学生から令和元年度に係る生活状況報告書の提出を受け、学業への取り組み状況、卒業後の希望進路（進学か就職か、就職の場合、民間企業か公務員か自営か）などを見るとともに、質問、要望などに対応した。

## 2. 高校奨学生と保護者のつどい

8月22日(土)、23日(日)の2日間、大阪市内で「令和2年度高校奨学生と保護者のつどい」を開催予定であったが、政府発表の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」(令和2年5月25日)に基づき、下記を考慮して中止した。

(中止を判断した主な理由)

- ①高校生、保護者、当会職員を合わせると200名以上のそれぞれが宿泊を伴う長時間の移動を行うこと。
- ②感染リスクを高める3密(密閉、密集、密接)を避けた開催が困難なこと。
- ③学業の遅れを取り戻すために多くの地域で夏休みが短縮されること。

### <年度毎の参加状況>

年度	開催日	高奨生数	参加者数内訳(人)				高奨生参加率	開催地
			奨学生	保護者	同伴者	合計		
H27	8/22-8/23	359	91	84	25	200	25.3%	東京
H28	8/20-8/21	337	63	69	15	147	18.7%	東京
H29	8/19-8/20	292	67	76	10	153	22.9%	東京
H30	8/18-8/19	275	64	66	11	141	23.3%	東京
R 1	8/17-8/18	248	78	80	30	188	31.5%	東京
R 2	中止							

## 3. 海外語学研修

高校奨学生を対象とした海外語学研修として、例年にならって7月22日～8月12日の3週間、米国に34名を派遣予定だったが、ホームステイ受け入れ先の下記の状況を考慮し中止を決定した。

(令和2年5月の米国の状況)

- ①受け入れ先の家庭の多くは、日常生活が通常ではないので、ホームステイの受け入れを行う状態ではない。
- ②業務委託先の株式会社JTBはホームステイ先の募集を通常5月に行うが、現状は受け入れ先の募集をできる状況ではない。
- ③米国の受け入れ先学校も現在は休校中で、午後からの課外活動先も閉鎖中が多く、再開の目途はたっていない。

なお、今回の中止に伴う補完対応として、対象者全員に対してネイティブ英会話のCD教材(英語教材会社から無償で提供していただいた)を11月に送り届けた。

＜年度毎の派遣者数＞

	行先	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 1 年度	R 2 年度
参加者数 (人)	アメリカ	26	31	24	30	24	中止
	オーストラリア	1	2	0	1	0	
	合計	27	33	24	31	24	

＊ 4. 修学支援金の給付

(1) 上級学校進学受験費用補助金

平成29年度より、高校奨学生を対象に、上級学校を受験する場合の受験料補助を開始した。令和2年度は人数、給付額ともに前年より増加した。

(2) 各種資格取得費用補助金

平成30年度より、各種資格取得費用補助金として、普通自動車第一種運転免許等取得費用補助金の給付を開始した。令和2年度の給付人数は142名、給付額は20百万円で、人数、給付額ともに年度ごとに増加している。

＜年度毎の修学支援金人数・給付額＞

種類	内容	H29 年度	H30 年度	R 1 年度	R 2 年度
進学受験費用補助 (5万円限度)	給付人数	52	67	54	64
	給付額(千円)	1,982	2,645	2,062	2,517
	平均給付額(千円)	38	39	38	39
自動車運転免許 取得費用補助 (50%・15万円限度)	給付人数	113	118	130	142
	給付額(千円)	15,909	16,270	18,539	20,135
	平均給付額(千円)	141	138	143	142

＊ H29年度の自動車運転免許取得費用補助金についてはH30年4月支給。

#### IV. 学生寮「心塾」の運営等

##### 1. 武蔵境寮の新設

篤志家の方から贈与を受けた土地・建物を改修し、武蔵境寮（東京寮の分室）として令和2年4月にオープンした。

##### 2. 塾生の状況

###### (1) 東京寮

令和2年4月に在寮生25人、新入生入寮予定者14人の合計39人の予定だったが、新入生14人のうち3人が新型コロナを理由に入寮しなかったため、36人でスタート。年度途中で4年生1人、3年生1人の合計2人が途中入寮し38人となった。

令和3年3月末現在、新入生年内未入寮生3人のうち、2人は3年度入寮予定、1人は入寮を辞退した。また、これとは別に、本年度入寮済新入生のうち、1人が新型コロナを理由に自宅通学を希望し、3月末をもって退寮した。3月末には13人が卒業したため、年度末在寮生は24人となった。

###### (2) 所沢寮

リフォーム終了後、2人入寮。新型コロナの影響により対面面談の代わりに、電話連絡等により生活状況を確認した。3月末には、1人卒業し、1人進級した。

###### (3) 武蔵境寮

男女各2人、計4人が入寮。月1～2回程度訪問し、生活状況を確認した。3月末には、2人卒業し、2人進級した。

###### (4) 関西寮

本年度新規入寮予定者14人に中途入寮者1人を加え、計15人が入寮し、在寮生37人と合わせて51人でスタート。途中5人退寮し、19名が卒業した。年度末在寮者は27人となった。

##### 3. 講座等の実施

###### (1) 東京寮

###### ① 文章講座、スピーチ講座、パソコン講座、英会話講座、教養講座

新型コロナの影響により、3密（密閉、密集、密接）が避けられないため中止した。

###### ② 読書感想文講座

年4回を予定していたが、新型コロナの影響で1回に変更、ミヒヤエル・エンデ『モモ』を教材として実施した。

## (2) 関西寮

### ① 読書感想文講座

年4回を予定していたが、新型コロナの影響で1回に変更、次の本を教材として実施した。

新入生：宮沢賢治『ポラーノの広場（銀河鉄道の夜）』

上級生：夏目漱石『三四郎』

### ② 教養講座

新型コロナの影響で中止した。

## 4. 卒塾生との交流促進

新型コロナの影響で寮行事が中止のため、東京寮、関西寮ともに卒業生との交流を中止とした。

## 5. 東京寮改修・修繕工事

以下の工事を実施した。

① 女子トイレ便座交換

② 吸気ファンおよび厨房排管修繕

③ 男女ガス乾燥機修理

④ ボイラー循環ポンプ修理

⑤ 女子個室クーラー交換

(参考)

< 心塾入塾生数の推移 >

年度	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2
東京	63	61	56	51	43	36
関西	26	32	42	45	53	51
所沢	2	2	2	2	2	2
武蔵境						4
計	91	95	100	98	98	93

(注) 年度初めの塾生数。例年、年度途中に若干名の入退寮者が出る。

## 6. 東京寮建替えに関するプロジェクト

老朽化に伴う東京寮の建替えを検討・推進するため、9月にプロジェクトチームを立ち上げ活動を開始した。本年度の主な活動状況は以下のとおり。

①全体スケジュール、設計・解体・建築および開設準備、新東京寮に必要な設備・機能等について検討・整理（令和2年9月～同3年1月）。

②(株)共立エステートとコンサルティング業務委託契約を締結（令和3年1月）。

③ゼネコン各社に新東京寮建築に関する入札募集要項を配布、現地見学会を実施（令和3年3月）

新東京寮は定員80名で、現敷地内に建替えを行い、令和6年オープンを目指す。

## V. 事業資金の強化・拡大

### 1. 寄付金収入について

令和2年度の寄付金収入は、新型コロナの影響により企業・団体訪問などの活動が制限されたが、雑誌媒体を中心に遺贈企画に協賛してきた結果、多額の遺贈もあり、総額8億6百万円となった。遺贈を除いた寄付金収入は5億13百万円で、当年度の予算3億40百万円を1億73百万円上回った。これには、多方面への多角的な募金活動推進等が反映しているとみられる。

＜寄付金収入推移＞ (百万円)

年 度	H28	H29	H30	R1	R2
金 額	512	524	452	742	806
(遺贈)	(113)	(186)	(113)	(275)	(293)

(注) カッコは内数

### 2. 寄付者の拡大（個人寄付者および法人・団体寄付者の拡大と復活）

事業の継続、発展の財務基盤である資金造成のため、個人・法人を問わず民間のあらゆる分野において、当会の事業に対する理解が深まることおよび支援の拡大に努めているが、令和2年度は、新型コロナによる影響が大きく、十分な活動ができたとはいえない。もっぱら、寄付者に対する接触活動の継続と拡大をねらいに、当会「50年史」と「あしながおじさんDVD」の配布、また、知名度・認知度向上ツールとして新たに製作した「あしながおじさんクリアファイル」の活用による資料発送等に力を入れた。

#### (1) 接触活動の推進による当会知名度・認知度向上と支援拡大

①地方自治体、自動車・交通関連企業などが実施する安全運転イベント等に積極的に参加・協賛し、当会の事業活動を広報するとともに交通遺児への支援を呼びかける予

定であったが、新型コロナの影響により、4月以降の全てのイベントが中止または延期となった。

- ②過年度に寄付をいただいたが、現在は停止している法人・団体への復活を、当会「50年史」「あしながおじさんDVD」配布を中心に働きかけた。
- ③全国の自動車学校、交通安全協会等、自動車や交通に関連する法人や団体を積極的に訪問する予定であったが、新型コロナの影響により、訪問は自粛、自動車学校や交通安全協会等へ積極的に当会「50年史」「あしながおじさんDVD」を配布した。新型コロナ終息後は、配布先を中心に訪問を拡大する。
- ④CSR・社会貢献に積極的な企業についても、当会「50年史」「あしながおじさんDVD」配布を中心に接触を続けた。

#### (2) 開発したツールの活用拡大と新ツール考案

- ①「あしながおじさん募金箱」設置に併せて、パンフレット、ポスター等を積極的に活用し、配布先を拡大した。
- ②平成25年に新規製作した「あしながおじさん感謝証」も、これまでに約7,000枚以上発行しており、新規あしながおじさん獲得に大きく貢献している。
- ③本年度、新たに製作した「あしながおじさんクリアファイル」を資料等の発送時に活用することを開始した。従来より名刺や封筒類には、「あしながおじさん」のロゴや名称を印刷しており、今後も、あらゆる機会をとらえて露出を増やしていく。
- ④「募金型自動販売機」の設置を引き続き推進したが、上期に数台の設置が実現したものの、新型コロナの影響や設置場所移転により年度を通しては微増に留まった。

#### (3) 無料出張講演の実施と小冊子配布による、当会事業への知名度・認知度向上活動

- ①自動車学校の教官への研修会や運転業務に従事する従業員の多い運送会社・タクシー会社等の研修会で無料出張講演を積極的に実施する予定であったが、新型コロナ影響のため、全て中止または延期になった。

#### (4) 遺贈受入れ等の積極的PR

遺贈に関与している弁護士、司法書士等や金融機関に、不動産を含む遺贈受け入れなど、当会のきめ細かな対応をパンフレットやホームページ等でPRし、当会を受遺者とする遺言書の作成を働きかけた。

これらの取組みの結果、当会の「活動内容が明快であり、寄付金の使途も明白であ



る安心できる団体」というクリーンなイメージが定着しつつあり、遺贈に関する問い合わせが増加傾向にある。これまでに投稿してきたメディアを積極的に活用するとともに、新聞中央紙、ブロック紙などの遺贈特集に参加し、当会の一層のイメージアップに努めた。また、北日本エリアの地方新聞社との関係づくりも推進した。

今後は、地方新聞社が有する地元ネットワークを通じ地域での寄付者の掘り起しとイメージアップにも努めたい。

#### (5) メディアの活用

令和元年7月1日より1年間、福岡県を中心とする北部九州と北海道全域においてラジオ広告「10秒CM」を流し、当会の知名度・認知度向上と「あしながおじさん＝交通遺児育英会」のイメージ定着を図った。

同CMのキャッチフレーズ【あしながおじさん、進学したよ。出会えてよかった、交通遺児育英会】は、「あしながおじさんDVD」や大手出版社による「遺贈・相続特集」の中でも使用しており、今後もラジオCMも含め他のメディアでの積極活用や露出拡大を通して、当会のイメージアップを図る。

＜個人および法人・団体等からの寄付＞ (千円)

年 度		H28	H29	H30	R1	R2
個人	件数	5,871	6,672	7,772	8,963	10,714
	人数	1,430	1,748	1,862	2,014	2,909
	金額	347,990	382,005	277,659	589,871	597,591
法人/ 団体 等	件数	1,090	1,219	1,248	1,271	1,282
	社数	533	578	600	591	538
	金額	164,358	141,821	174,772	152,732	209,136
合計	件数	6,961	7,891	9,020	10,234	11,996
	人/社 数	1,963	2,326	2,462	2,605	3447
	金額	512,348	523,826	452,431	742,603	806,727

## VI. 知名度向上活動

### \* 1. 広報紙およびホームページの充実

#### (1) 広報紙

広報紙『君とつばさ』を5月(344号)、8月(345号)、10月(346号)、1月(347号)、3月(348号)の5回発行し、学校関係、奨学生、寄付者などに各回約3万1,000部を送付した。そのほか、10月号と3月号については、別途全国の中学校に1万部を送付した。

#### (2) ホームページ

- ①新型コロナに対応して、トップページに「緊急のお知らせ」欄を設け、支援金の給付、イベント等の中止連絡、職員のテレワーク体制への移行等をいち早く掲載、奨学生や関係者等へ迅速な情報提供を行った。
- ②春・秋の全国交通安全運動に向けて、内閣府制作の交通安全啓発ポスター、チラシをホームページ上に掲載し、交通安全意識の啓発に取り組んだ。
- ③自動車業界紙に掲載された当会の交通安全運動への協賛記事広告をホームページ上で紹介した。

### 2. その他の取り組み

#### (1) 記事掲載促進

令和2年6月に実施した新型コロナ対応の支援金給付に際しては、記者クラブへの投込みに加えて、一般紙、業界紙、雑誌に対して積極的なリリースを行った結果、全国紙、地方紙含めて広く掲載された。

12月に実施した2回目の新型コロナ対応支援金に際しても、記者クラブへの投込みを中心にリリースを行った。

また、業界紙などに対して記事掲載の働きかけを行った結果、春・秋の全国交通安全運動期間に合わせ、自動車業界紙に当会の事業活動が紹介された。

#### \* (2) 媒体を通じた広告の展開

本年度は以下の広告を展開した(遺贈関係の広告は「V. 事業資金の強化・拡大」16ページ参照)。

①「JAF Mate」(JAF メディアワークス) への広告掲載

購読者数の多い JAF 会員向けに発行されている「JAF Mate」の4月号、6月号に広告を掲載した。

②「自動車年鑑」への広告掲載

広く自動車業界関係者の目に留まるように、日刊自動車新聞社が令和2年9月に発行した「自動車年鑑(2020-2021)」に広告を掲載した。

③「螢雪時代臨時増刊号」(旺文社) への広告掲載

全国の交通遺児高校生に広く当会の奨学金制度を周知することを狙いとして、4月、6月、8月の「螢雪時代」の各臨時増刊号に奨学生募集の広告を掲載した。

(3)交通安全活動への協賛等を通じた認知度向上推進

①全国交通安全運動への参画

春・秋の全国交通安全運動に協賛団体として参画し、ホームページなどで交通安全への啓発を行った。

②無料出張講演の実施

無料出張講演の実施により、交通安全意識の啓発を行うとともに社会の交通遺児への理解を促進する予定であったが、新型コロナの影響により全ての講演会が中止または延期となった。

③「飲酒運転撲滅・根絶」イベント等への積極的参加・協力

全国各地の自治体が開催する「飲酒運転撲滅・根絶」イベント等に積極的に参加・協力し、交通安全に対する強いメッセージを発信しつつ、当会の事業活動を広報するとともに交通遺児への支援を呼びかける予定であったが、新型コロナの影響により、全てのイベントが中止となった。

(4)交通遺児家庭についての理解を深める活動の推進

①小冊子を通して交通事故の悲惨さを訴え

平成29年1月に発刊した交通遺児とその母親の思いを綴った小冊子「父の思い出を乗り越えて」を多くの人に読んでいただくために、自動車学校や交通関連団体などに配布し、交通安全意識の啓発に努めた。併せて、第2集の制作準備を進めている。

②警察庁主催のシンポジウム等への協力

交通事故被害者サポート事業の一環として、警察庁主催の「交通事故で家族を亡くした子供の支援」に関する意見交換会（11月25日）とシンポジウム（12月28日）がオンラインで開催され、それぞれ当会の奨学生が参加し、自己の体験発表を行った。

③警察庁と連携した当会の事業紹介パンフレットの継続配布

例年にならい、警視庁および全国の警察署から交通事故被害者向けに配布する資料として、当会の事業紹介パンフレット計1万3,000部を警察庁交通局交通企画課に送付した。

④警視庁「交通事故用被害者の手引」への掲載

警視庁（犯罪被害者支援室）が発行する「交通事故用被害者の手引」に「経済的に援助する制度や団体」として当会の案内が掲載されているが、昨年4月から奨学金の一部給付を開始したことに伴い、内容を更新した。

(5) 全国の自動車・物流団体・企業への広報

①全国の自動車や物流関連の団体、企業を積極的に訪問し、当会の知名度向上、支援の拡大を図る予定であったが、新型コロナの影響により、全て中止した。

②各種企業、団体が主催するセミナーやイベントでの講演・スピーチに積極的に参加、協力し、当会の事業活動を広報するとともに支援を呼びかける予定であったが、新型コロナの影響により、全て中止となった。

別表1

## 奨学生現況表 [高校・大学・大学院・専修・各種 学年別]

(令和3年3月31日現在)

区分・学年 都道府県	高校・高専					大学・短大						院・修士			院・博士				専修				各種								
	1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計
北海道	1	4	4			9	4	4	2	4	1		15	1	1	2					0	4		2		6					0
東 北	青森		3	5		8	2			2			4			0					0					0					0
	岩手		2	3		5		1					1			0					0		1	1		2					0
	宮城	3	2	3		8	3	7	3	5	1		19	1		1					0	1				1					0
	秋田		2			2							0			0					0					0					0
	山形		1			1	3	2	3	2			10			0					0					0					0
福島	2	1	3		6	1	6	2	3			12			0					0		1			1					0	
関 東	茨城			2		2	3	4	1	2			10			0					0		1	1		2	1				1
	栃木	1				1	1		1	5			7			0					0	3				3					0
	群馬	2	3	3		8	3	2	4	4			13	1		1					0	1				1					0
	埼玉		2	3		5	2	8	4	4			18	1	1	2					0	3	3		1	7					0
	千葉	1		3	1	5	8	6	2	5			21			0					0	1	2			3					0
	東京	4	5	8		17	9	12	8	10		1	40			0					0	2				2					0
神奈川	3	4	2		9	4	8	4	8			24			0					0	3		1		4					0	
中 部	新潟	2	2	1		5	3	3	5	6		1	18			0					0	1	2			3					0
	富山			1		1	1		2	2			5			0					0					0					0
	石川	2		2		4	2						2			0					0					0					0
	福井	1		1		2			1	2			3			0					0					0					0
	山梨	1	1			2		1	2	2			5			0					0					0					0
	長野	2	1	3		6	5	2		5	2		14			0					0					0					0
	岐阜	2	1	5		8	3	4	2	4		1	14			0					0					0					0
	静岡	3	1	3		7	3	3	6	5			17			0	1				1	3	4			7					0
	愛知	5	4	4		13	7	13	6	8			34			0					0	4	1			5					0
三重	3	2	2	1	8	1	4	2	5			12		1	1	1				1	1				1					0	
近 畿	滋賀	2	2	4		8	4	3	3	3			13			0					0	2				2					0
	京都	1		1		2	2	3	3	2	1		11			0	1				1	1	1			1					0
	大阪	7	5	7		19	5	10	15	12		1	43		1	1	1				0	2	3	3		8					0
	兵庫	7	3	5		15	9	8	5	8	1		31	1		1					0	3	2	3		8					0
	奈良		2	3		5	1	7	2	2			12		1	1					0	1				1					0
和歌山	1	4	1		6	2	2	2	2			8			0					0	3	1			4					0	
中 国	鳥取					0				1	1		2			0					0					0					0
	島根					0	1			1			2			0					0					0					0
	岡山	1	1	2		4	5		1	2			8			0		1			1	2	1		1	4					0
	広島		5	2		7	2	1	5	4			12		1	1					0		1			1					0
四 国	山口	1	2	4		7	2	3	2	3			10			0					0	2		2		4					0
	徳島	2	3	1		6	2	3	2	2			9			0					0					0					0
	香川	2		2		4	1	3	4	4			12			0					0	1	2			3					0
高 知	愛媛	1	1	2		4	2	3	1	3	1		10			0					0	1	1			2					0
	高知			2		2	2	0	1				3			0					0		1			1					0
九 州	福岡	7	6	3		16	7	6	3	5		1	22			0					0	3	3			6					0
	佐賀	3				3		2	1	2			5			0					0	1	1			2					0
	長崎		1			1	1	1	1	3			6		1	1					0	1				1					0
	熊本	4	4	3		11	3	1		3			7			0					0			1		1					0
	大分		1			1		2	1	1	1		5			0					0		1			1					0
	宮崎	1	1	3		5	3	1	1				5			0					0	1		1		2					0
鹿児島	3	3	2		8	1	4	1				6	1		1					0	1	1			2					0	
沖 縄	2	1	1		4	2	1	3				6			0					0	4	3			7	1			1	2	
合 計	83	84	111	2	0	280	123	156	116	157	9	5	566	6	7	13	1	2	1	0	4	53	39	15	2	109	1	1	0	1	3
(内休学停止者)						0	1	1	1	2			5			0					0	1				1					0
備考(内数)	高校・定時制: 1人 高校・通信制: 20人 高専・専攻科: 4人					短大: 18人										高等課程: 5人															
総合計: 975人																															

○奨学貸与金増減残高状況

令和2年度の奨学貸与金の増減残高状況は、次の通りである。

(貸倒引当金 370,800,000円控除前の金額)

(単位:円)

		高等学校奨学金	大学奨学金	大学院奨学金	専修学校奨学金
奨学貸与金期首残高		4,323,062,753	5,626,531,108	376,965,800	1,382,806,768
貸与	当期貸与高	103,690,000	218,310,000	12,150,000	46,260,000
	前期繰越貸与高	26,920,168,500	18,785,987,059	926,750,000	3,467,930,000
	次期繰越貸与高	27,023,858,500	19,004,297,059	938,900,000	3,514,190,000
返還	当期返還高	283,910,409	450,746,958	34,263,086	96,828,708
	前期繰越返還高	22,237,663,134	12,993,909,392	541,514,200	2,049,483,732
	次期繰越返還高	22,521,573,543	13,444,656,350	575,777,286	2,146,312,440
免除	当期免除高	31,929,343	17,586,000	2,832,000	7,550,975
	前期繰越免除高	359,442,613	165,546,559	8,270,000	35,639,500
	次期繰越免除高	391,371,956	183,132,559	11,102,000	43,190,475
奨学貸与金残高		4,110,913,001	5,376,508,150	352,020,714	1,324,687,085

		各種学校奨学金	奨学金合計	高等学校入学一時金 進学準備金	大学入学一時金
奨学貸与金期首残高		55,655,060	11,765,021,489	1,610,078,626	749,908,893
貸与	当期貸与高	840,000	381,250,000	53,600,000	25,200,000
	前期繰越貸与高	165,670,000	50,266,505,559	3,022,850,000	1,799,950,000
	次期繰越貸与高	166,510,000	50,647,755,559	3,076,450,000	1,825,150,000
返還	当期返還高	3,606,370	869,355,531	78,941,328	50,478,346
	前期繰越返還高	108,854,940	37,931,425,398	1,363,714,456	1,025,782,896
	次期繰越返還高	112,461,310	38,800,780,929	1,442,655,784	1,076,261,242
免除	当期免除高	0	59,898,318	9,609,205	2,705,330
	前期繰越免除高	1,160,000	570,058,672	49,056,918	24,258,211
	次期繰越免除高	1,160,000	629,956,990	58,666,123	26,963,541
奨学貸与金残高		52,888,690	11,217,017,640	1,575,128,093	721,925,217

		専修学校入学一時金	各種学校入学一時金	入学一時金等合計	合計
奨学貸与金期首残高		270,265,776	7,946,200	2,638,199,495	14,403,220,984
貸与	当期貸与高	19,600,000	0	98,400,000	479,650,000
	前期繰越貸与高	434,000,000	12,800,000	5,269,600,000	55,536,105,559
	次期繰越貸与高	453,600,000	12,800,000	5,368,000,000	56,015,755,559
返還	当期返還高	17,159,770	545,990	147,125,434	1,016,480,965
	前期繰越返還高	156,207,974	4,467,000	2,550,172,326	40,481,597,724
	次期繰越返還高	173,367,744	5,012,990	2,697,297,760	41,498,078,689
免除	当期免除高	1,547,850	0	13,862,385	73,760,703
	前期繰越免除高	7,526,250	386,800	81,228,179	651,286,851
	次期繰越免除高	9,074,100	386,800	95,090,564	725,047,554
奨学貸与金残高		271,158,156	7,400,210	2,575,611,676	13,792,629,316